# の知床科学委員会しんぶ

## 海域ワーキンググループ No.8

知床半島の海域の保全に向けて、平成30(2018)年度は会合を2回開催しました。 第1回目は、平成30(2018)年8月1日に羅臼町で開催し、第2回目は平成31(2019)年 3月6日に札幌市で開催しました。海域ワーキンググループではモニタリングの結果などが話し合われました。

※知床海域の今を知るため、様々な状況を定期的に観察(モニタリング)しています。

#### 平成29(2017)年度の知床の海について

#### サケ

サケは漁獲量が急激に減少し、近年にな い不漁となりました。特に羅臼では大きく 減少しました。

将来にわたってサケを利用していけるよう、 引き続き漁獲量の変化をモニタリングして いきます。

#### ケイマフリ

斜里町のウトロ岬からエエイシレド岬を調査 し、237羽を確認することができました。 ケイマフリは増加傾向にありますが、その個 体数はまだ少ないので、モニタリングしてい きます。また、観光船との関係についても調 べていくこととしました。

#### わかりやすい資料の作成について

現在の知床海域でどのようなことが起こっている のか等、様々な情報を評価シートとしてまとめて いますが、地元のみなさまが知床海域の情報を 活用しやすいように、わかりやすい評価シートと資 料集に変えていくこととしました。 引き続き、わかりやすい情報の発信に努めていき

ます。

※評価シート:知床の情報をまとめ、それに対する 専門家の意見を記載したもの。

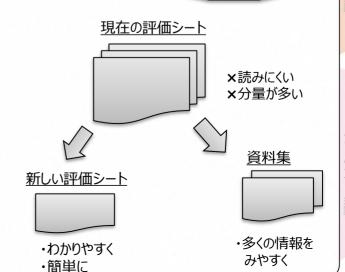
海氷 沿岸での観測初日は1月30日で、 3月27日まで観測できました。 2月下旬頃に氷の量が最大となりましたが、 平年から見ると少ない量でした。 引き続き、知床海域に訪れる海氷をモニタ リングし、どのような変化が起こっている か調べていきます。

> ※海氷:流氷を含む 海に浮かぶ氷の総称

1980年代と比べると漁獲量はかなり減少し ていますが、禁漁区の設定など漁業者の 方々の協力もあり、近年は少ないながらも 漁獲量は維持されています。 漁業を安定して続けていくためにも、モニタ

リングを実施し、漁獲量が変化した原因の 究明に努めていきます。

スケトウダラ



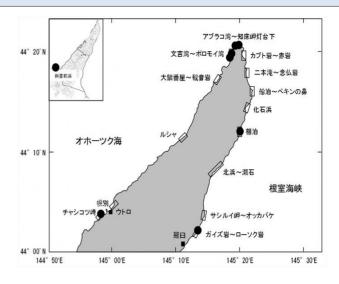
### モニタリング結果からわかること(生物相について)

平成29(2017)年度は、知床の浅海、 域の生物相調査が行われました。生物相と は、その地域にどんな生物がすんでいるのか ということであり、知床半島の浅瀬に住む魚、 貝、海藻などを調べました。

その結果、魚類では、キュウリウオ、ボラ、カ ズナギ、ニセタウエガジおよびシマウキゴリの 5種を新たに確認しました。

また、フジツボの一種であり、アメリカ西岸 を原産とする外来種である、キタアメリカフジ ツボを相泊で発見しました。

外来種が知床半島の生物へ与える影響 に注意する必要があるため、今後もモニタリング調査を継続していきます。



上図:平成29年の知床半島浅海域における 魚類生息調査の調査点



#### 海域WG座長コラム 〜知床海域の今〜

知床半島周辺海域の海洋環境と多様な海洋生物のモニタリングを通して、何らかの変化などがありましたら、海域WGが責任をもって皆さまに情報を提供して行きます。サケやスルメイカの来遊の減少などは、知床からはるかに離れた海の変化を反映していることがあります。また、地球温暖化に伴って知床の海でも漁獲対象種に変化が起きる可能性もあります。未来永劫まで知床の沿岸漁業の繁栄が続きますよう、これからも宜しくお願い致します。(海域WG座長:桜井泰憲)

会議の内容をもっと知りたい方はこちら

知床データセンター http://dc.shiretoko-whc.cor

第3期海域管理計画もご覧いただくことができます。

#### ◆お問い合わせ先◆

内線 24-357

北海道環境生活部環境局生物多様性保全課 〒060-8588

札幌市中央区北3条西6丁目 電話 011-231-4111 (代)

<平成31年3月発行>

影響を見れたらと考えています。形響を見れたらと考えています。海鳥が一緒に繁殖する素晴らしい場所です。また、夏にはオジロワシが越冬に来る、季節的に生才オワシが越冬に来る、季節的に生がにおとづれ、冬にはオジロワシがは、多にはオジロワシがは、多にはハシボソミズ所です。また、夏にはハシボソミズの目から知床の上に、夏にはハシボソミズの目から知床はケイマフリを含む複数種の知床はケイマフリを含む複数種の知味はケイマフリを含む複数種の



北海道大学水産科学院教授。 南極、北海道や北極域の孤島で海鳥の行動・生態研究をしてきました。バイオロギング技術も使って、気候変動と人間活動(特に海洋汚染)の海洋生態系への影響を、海鳥の目を通して探ろうとしています。